科目名	日本地域形成論　　Regional Developments in Japan						
科目担当者	朝日　克彦　　ASAHI Katsuhiko						
単位数	2	配当年次	2年	授業形態	講義	開講学期	後期
履修学部・学科［区分］ 他学部他学科履修	法学部・法律学科［専門教育科目　関連科目］ 他学部他学科履修〇					ディプロマポリシーとの関連	(1)(4)
授業の概要	わが国は約 38 万 km² と世界を俯瞰した時には限定された国土でありながら，その歴史的，自然的背景の多様性によって地域ごとにさまざまな違いや特徴がある．最初に身近な宮崎県の自然特性と産業の関わりを解説したうえで，わが国の地方ごとの成立要因を考察する．こうした各地方の背景や現状を把握することで，今日的課題を考えられる．						
授業の到達目標	①　地域を理解する意義やその手法を習得する． ②　地域が今日の様相になった過程やその要因，背景を理解する． ③　今日，地域が内包する諸課題について現実に即して考察する．						

授業計画・内容・授業外学修		
	1	イントロ　講義の進め方，わが国の基本的な地域構造
	2	九州地方の自然環境と火山
	3	宮崎の畜産業
	4	宮崎の農業
	5	宮崎の工業
	6	北海道地方
	7	東北地方
	8	関東地方
	9	中部地方
	10	近畿地方
	11	中国地方
	12	四国地方
	13	九州地方
	14	南西諸島
	15	まとめ

授業外学修 (事前学修)	シラバスにもとづいて次回の講義地方について，①自然条件（気温・降水量），②人口，③おもな産業基盤（農水産業，工業，商業）について地方の特徴を調べたうえで講義に臨む．（毎週１時間程度）
授業外学修 (事後学修)	前半で１回，後半で１回，そこまでの内容を踏まえて，自身が関心を寄せる事象についてレポートにまとめ，提出．１回目のレポートでは関心のある土地に【実際に訪問して】，その土地の自然環境や生業の一端を観察してくる．２回目のレポートは国内の特定地域について主題を定め解説する．（45 時間程度）

成績評価方法・評価比率・到達目標との対応	成績評価方法	評価比率	到達目標との対応
	予習チェック	30%	①，②
	レポート２回	40%	①，②，③
	定期試験	30%	①，②，③

成績評価基準	秀：（評点 90 点以上）到達目標を極めて高い水準で達成している場合 優：（評点 80 点～89 点）到達目標を高い水準で達成している場合 良：（評点 70 点～79 点）到達目標を一定の水準で達成している場合 可：（評点 60 点～69 点）到達目標を最低限の水準で達成している場合 不可：（評点 60 点未満）到達目標に達していない場合
教科書	教科書は特に定めないが，毎回の講義には地図帳を持参すること，学校で使っていたモノでかまわない．
参考文献	伊藤喜栄・藤塚吉浩 編『図説 21 世紀日本の地域問題』古今書院，ISBN 4772241248
その他	講義期間中の早い段階に各自で地域に実際に出て，見て，調べて，１回目のレポートにします．